集落ぐるみで取り組む
鳥獣被害対策マニュアル

岡山県鳥獣害対策室

はじめに

○ 岡山県におけるイノシシやシカなどによる農林水産業被害は、依然として高い水準であり、経済的損失も大きく、農業者の生産意欲の減退を招くなど被害防止対策が重要な課題となっています。

○ このため、鳥獣被害防止推進体制の強化や農業者等自らが捕獲する捕獲対策の体制づくりや、侵入防止柵の設置による防護対策、鳥獣を集落に入り込ませない集落環境整備など、集落ぐるみの総合的な被害防止対策が必要です。

○ 集落内の話し合いを進め、集落ぐるみで被害防止対策を進めましょう。

目次

被害対策の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

柵を有効に使うための３つの原則
①動物に、「跳び込める」、「潜り込める」と思わせない！・・・・2
②動物に、農作物の味を覚えさせない！・・・・・・・・・・・・・3
③しびれない電気柵は設置しない！・・・・・・・・・・・・・・・4

効率的な「捕獲」を推進するために
・捕獲の基本を知ろう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
・捕獲補助者を活用して、集落ぐるみの捕獲体制を整備しよう！
・・・・・・・・・7

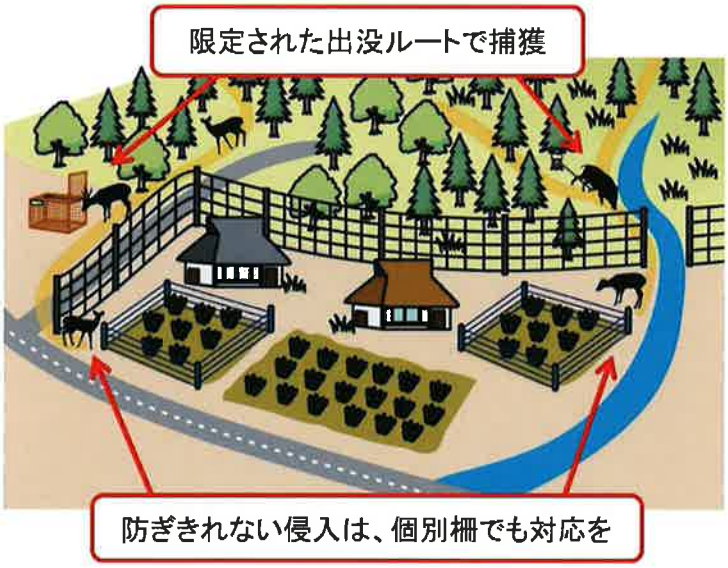
集落環境を整備する
・集落内の居心地を悪くしよう！・・・・・・・・・・・・・・・・・8

被害対策の基本的な考え方

■対策の柱は、「柵」と「捕獲」！

「捕獲」によって加害鳥獣の数が減ることで、「柵」による防衛機能は高まります。一方で、「柵」があれば動物の動きを掌握したり、わなへと誘導できるため、捕獲効率を高める効果が期待できます。

このように、「柵」と「捕獲」は、お互いの機能を高め合う関係にあるので、2つの対策を連携させることで、対策の効果はさらに高まります。



【集落柵の開口部対策の例】

被害対策のメニューに「捕獲」を加えることで、「絶対に入らせない」という発想から、

「侵入ルートを限定して、加害鳥獣を効率的に捕獲する」

という発想に考え方をシフトさせることが重要です。

■追い払いや集落の環境整備で、効果倍増！

集落の魅力を下げるための取り組みは、「柵」の防衛機能をさらに高める効果があります。

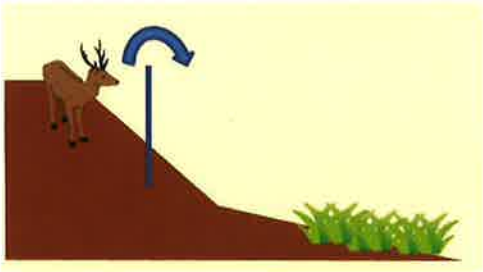
また、集落周辺に自由に食べられるエサがなくなれば、わなの中のエサの魅力が高まるため、「捕獲」の効率向上にもつながります。

ただでエサを食べさせない！

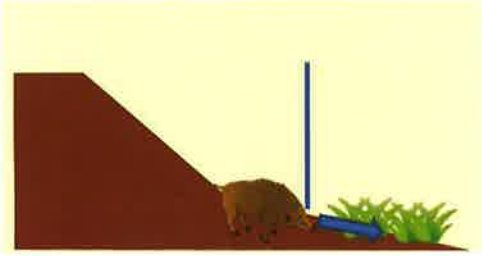
「柵」を有効に使うための３つの原則

①動物に、「跳び込める」、「潜り込める」と思わせない！

動物に侵入できると思われたら、どんな柵でも突破されてしまいます。動物の目線に立って、適切に柵を設置、維持管理することが重要です。



柵が低かったり、斜面に柵を張ると、シカやイノシシに跳び込まれてしまいます。
サルやハクビシン、アライグマの侵入を防ぐための複合柵では、近くに跳び込める木や建物などの構造物がないことを確認しましょう。



柵のすそや継ぎ目に隙間があれば、動物は絶対に見逃しません。
地面に凹凸があり、電気柵の最下段の高さを一定に保てない箇所も狙われやすいポイントになります。

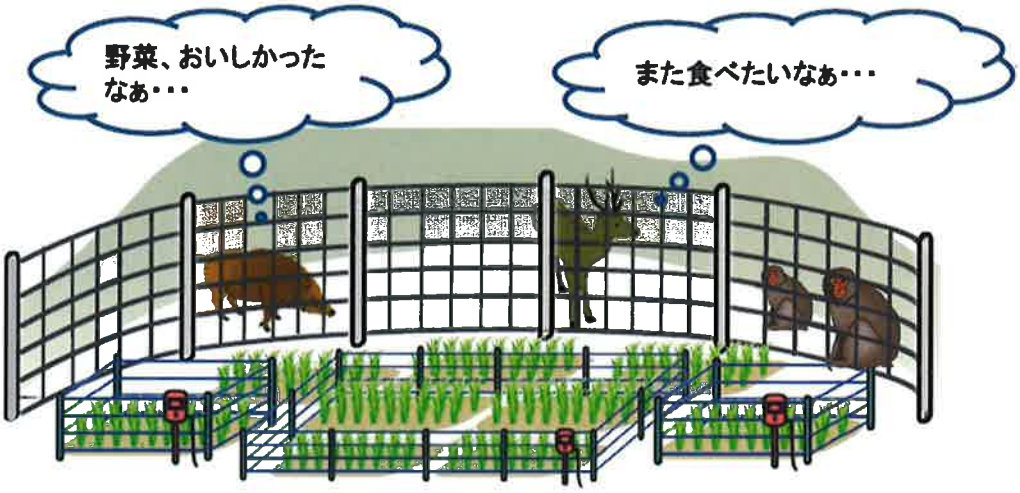
※鳥類による被害防除も、考え方は一緒ですが、空からの侵入を防ぐための「柵」を設置するためには、コストがかかります。費用対効果を考慮して、どの程度の「柵」を設置するのが妥当か判断することが大切です。

やられたら、やり返そう！

柵が破損したり、侵入された場合は放置せず、柵のかさ上げや補強、目隠しなど、状況に応じて適切な対応策を講じましょう。
柵に隣接する木や建物が侵入ルートになっているようなケースでは、柵の設置ルートを検討し直す必要がある場合もあります。

②動物に、農作物の味を覚えさせない！

一度、味を覚えた動物は、農作物に執着するようになります。執着した動物の侵入を防ぐのは困難ですので、柵は被害が発生する前に予防的に設置、整備することが重要です。



動物は、農作物の旬の時期をねらって被害を出すため、被害の発生時期や季節ごとの移動ルートは、動物種ごとにある程度予測することができます。過去の被害情報をもとに、計画的な防除に努めましょう。

③しびれない電気柵は設置しない！

電気柵は、動物の警戒心の強さを利用した心理柵です。見慣れないものや、痛い思いをした記憶が残っているものは、鼻や手を使って、繰り返し安全確認をしますが、いったん、しびれないことを学習してしまうと、こうした確認行動が見られなくなります。動物の毛皮は、ほとんど電気を通さないため、こうなると電気柵の効果は失われてしまいます。

【電気柵の効果】

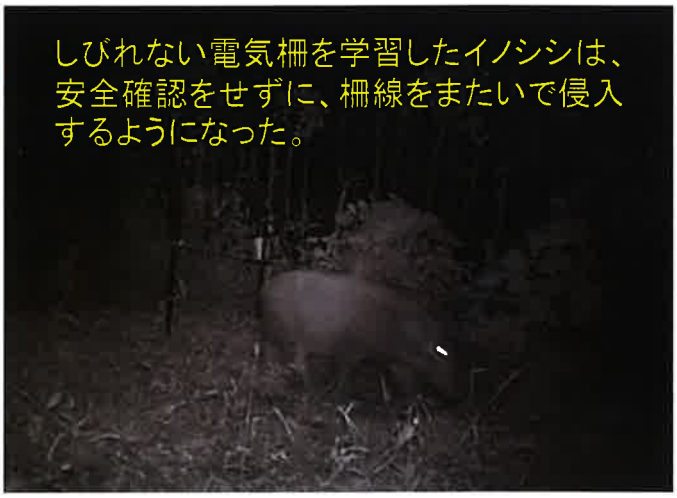
動物が電気柵を警戒して、
濡れた鼻で確認している

全身に強い電流が流れて
侵入を食い止めることができる

電圧は、テスターを用いて、こまめに測りましょう。
5,000V以上を維持する必要があります。

漏電や電池切れを放置したり、電源をつけないダミーの線を張ったりしていると、動物は線を恐れなくなり、安全確認をせずに侵入するようになります。

しびれない電気柵は、地域全体の電気柵の効果を失わせる危険性があるため、線を張っている間は、常に十分な電気が流れるように柵を管理することが重要です。



効率的な「捕獲」を推進するために

■捕獲の基本を知ろう！

①場所選び

効率よく捕獲を進めるために一番大切なことは、どこで捕獲を行うかを決めることです。動物は、季節ごとに依存するエサ資源や利用する環境が変わるため、捕獲を実施する時期に頻繁に利用する場所や、そこへ出没するための通り道を特定することが重要です。

動物の利用環境や移動ルートを特定するために役に立つのが、様々な痕跡や被害・目撃の情報です。できるだけ新鮮な痕跡や情報を集めて、最も捕獲しやすい場所で捕獲を実行しましょう。

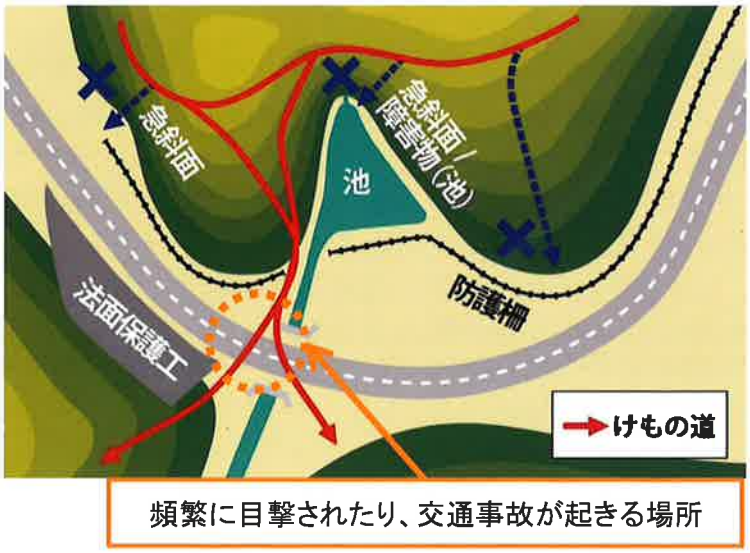
最新の利用環境を特定する

足跡や掘り起こし、食痕、糞、泥すり跡、目撃などの情報をいち早く収集、整理することで、その時期、集落のどこに対象の動物が出没しているかを的確に把握します。

←【イノシシの情報収集体制の例】

移動ルートを特定する

動物は、通常、最も楽に目的地にたどり着ける道を利用する習性があります。被害地や目撃情報の多い地点を踏査して、頻繁に利用しているけもの道と、そこが主要な移動ルートになっている理由を見つけましょう。



→防護柵や池、地形上の制約により、動物の移動ルートが限定されている例

②エサによる誘引

はこわなや囲いわなで動物を捕獲するためには、エサを使って動物をわなへと誘導することが重要です。毎日の餌付けによって、動物にわなの中が安全なエサ場であると学習させることができれば、動物は警戒せずにわなの中に進入するようになります。

エサを置く位置を少しずつ奥へとずらしていくことで、わなの奥でエサを食べることを覚えさせます。

警戒心の高い動物や、群れで行動する動物を捕獲する場合

イノシシやシカ、サルなどの動物を効率的に捕獲するためには、警戒心を解くための餌付けを行う必要があります。はじめは、わなの外でエサを食べさせますが、徐々にエサを置く位置をわなの中へとずらして行って、最終的にはわなの奥でしかエサが食べられないようにしていくことで、群れ全体にわなをエサ場と認識させることが重要です。

より詳しい解説は、**「岡山県イノシシ・シカ捕獲マニュアル」**を参照してください。
マニュアルは、県のホームページに掲載しています。
（http://www.pref.okayama.jp/soshiki/328/）

比較的警戒心の低い動物や、頻繁に出没場所が変わる動物を捕獲する場合

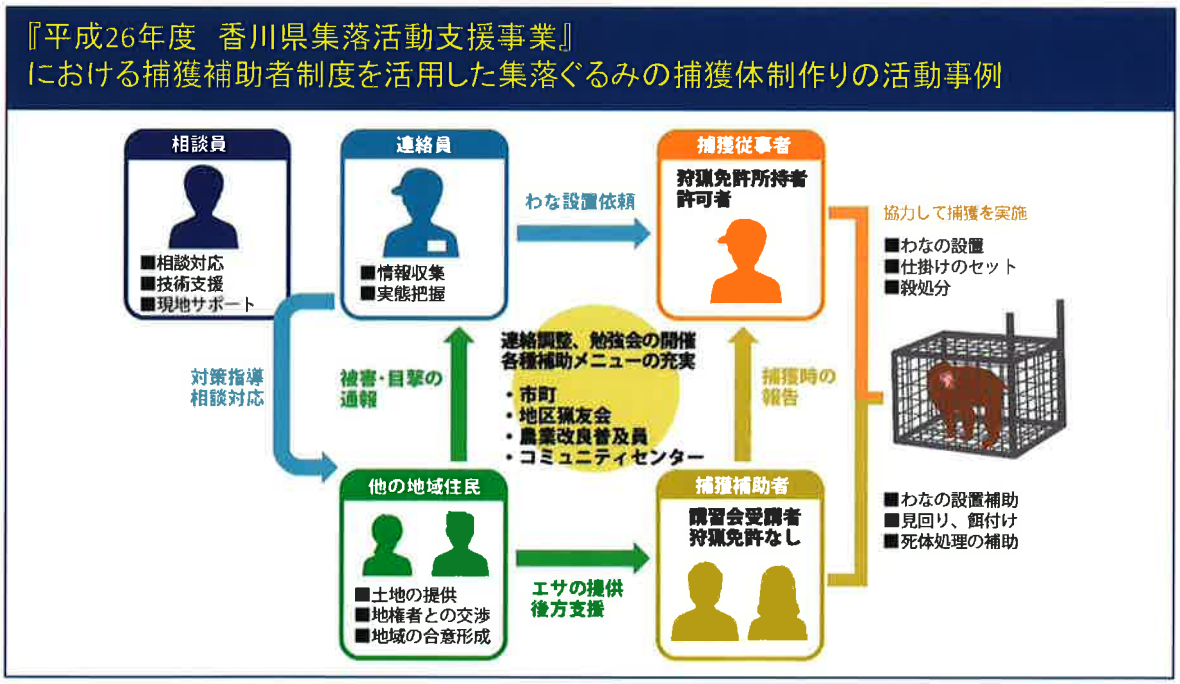
アナグマやヌートリアなどの中型の哺乳類や、サルを小型のはこわなで捕獲する場合には、長い時間をかけて餌付けるよりも、出没場所を予測して、先回りしてわなを設置した方が、効率的に捕獲を進めることができます。

この場合、わなを常に捕獲できる状態に維持することや、わなの中のエサを新鮮な状態に保つことが、捕獲成功のカギを握ります。少ないチャンスを逃さず、短期間で捕獲を成功させることが重要です。

■捕獲補助者を活用して、集落ぐるみの捕獲体制を整備しよう！

少数の捕獲従事者が、たくさんのわなを管理しなくてはならない現状では、すべてのわなをきめ細かく管理することはできません。効率的に捕獲活動を推進にするためには、被害を受けている農業者等が積極的に捕獲活動に参画する「集落ぐるみの捕獲体制」を整備することが重要です。

捕獲活動に参画するには、自らが狩猟免許を取得する以外にも、捕獲補助者として日々の捕獲活動を支援する方法もあります。また、エサや最新の被害・目的情報を提供することも、捕獲の推進に役立ちます。

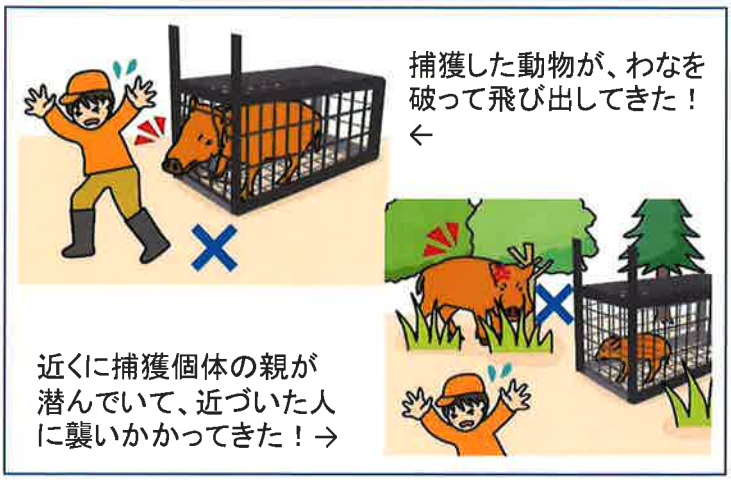


※用語解説　①捕獲従事者…鳥獣の捕獲に従事している人　②捕獲補助者…鳥獣の捕獲に従事している人の補助をする人

【安全管理について】

捕獲された野生動物は、興奮していてとても危険です。捕獲補助者は、動物が捕獲されていることを確認したら、わなには近寄らず、すみやかに捕獲従事者に連絡しましょう。

はこわなでも事故が発生することがあります。作業中は油断せず、慎重に行動しましょう。→



集落環境を整備する

■集落内の居心地を悪くしよう！

【誘引要素の除去】

野生動物にとって、収穫されることなく放置されたカキやクリ、かんきつ類などは、魅力的なエサ資源となっています。自由に食べられるエサがあるうちは、わなでの捕獲効率も向上しないため、早めに収穫するか、きちんと柵で防衛するようにしましょう。特に、継続的な管理が難しい場合は、思い切って枝打ちや伐採することも検討しましょう。

放任果樹（カキ）に集まるサルの群れ

【ヤブの刈り払い】

放棄された竹林や雑草が生い茂る耕作放棄地、河川敷のヨシ原などは、野生動物が身を隠して移動したり、危険を察知した際に逃げ込めるシェルターの役割を果たしています。

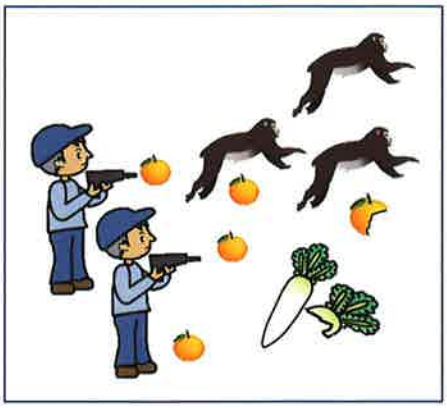
所有者や管理者のいない土地については、地域で話し合って、計画的に管理できる仕組みを考えましょう。

雑草が生い茂る耕作放棄地

【追い払い】

日中に畑や水田に出没するサルを見かけたら、ロケット花火やモデルガンなどを使って追い払うことも重要です。対策の初期段階では、追い払いだけで被害を防ぐことができる場合もあります。

一方、人間を恐れなくなったサルは、非常に危険ですので、単独での追い払いはやめ、地域ぐるみで計画的に追い払いができる体制を構築しましょう。



サルの追い払いの様子（イメージ）

問い合わせ先

詳しくは、最寄りの県民局農林水産事業部（農畜産物生産課・森林企画課・農業普及指導センター）または、農林水産総合センター、県担当課（鳥獣害対策室、自然環境課）へお問い合わせください。

備前県民局農林水産事業部	TEL 086-233-9827（直） 岡山市北区弓之町6-1
備中県民局農林水産事業部	TEL 086-434-7032（直） 倉敷市羽島1083
美作県民局農林水産事業部	TEL 0868-23-1305（直） 津山市山下53
農林水産総合センター普及連携部普及推進課	TEL 086-955-0274（直） 赤磐市神田沖1174-1
農林水産部農村振興課鳥獣害対策室	TEL 086-226-7439（直） 岡山市北区内山下2-4-6
環境文化部自然環境課	TEL 086-226-7310（直） 岡山市北区内山下2-4-6

本冊子の内容は、農村振興課鳥獣害対策室のホームページに掲載しています。
（http://www.pref.okayama.jp/soshiki/328/）

岡山県鳥獣被害対策マニュアル
平成29年３月　初版
企画・発行／岡山県農林水産部農村振興課鳥獣害対策室
制作・監修／株式会社　野生鳥獣対策連携センター　岡山支社　阿部 豪
岡山県赤磐市桜ヶ丘３丁目3-247　TEL 086-995-2280

製本・印刷／株式会社印刷工房フジワラ